



お内仏(仏壇)に座る③⑦ ~ 「御文」に聞く(3) ~

そもそもこの御正忌のうちに参詣をいたし、こころざしをはこび、報恩謝徳をなさんとおもいて、聖人の御まえにまいらんひとのなかにおいて、信心を獲得せしめたるひともあるべし。また不信心のともがらもあるべし。もつてのほかの大事なり。そのゆえは、信心を決定せずは、今度の報土の往生は不定なり。されば不信のひとも、すみやかに決定のこころをとるべし。人間は不定のさかいなり。極楽は常住の国なり。されば不定の人間にあらんよりも、常住の極楽をねがうべきものなり。されば当流には、信心のかたをもつてさきとせられたる、そのゆえをよくしらずは、いたずらごとなり。いそぎて安心決定して、浄土の往生をねがうべきなり。

(『御文』5帖目第11通／『真宗大谷派 勤行集』[通称：赤本]P62)

「[意識]そもそも、この報恩講にお参りし、ご懇志を運んで、親鸞聖人への深い感謝をしようとお参りする人の中には、自分の思い計らいが当てにならないことを知らされて、他力の信心を得た人もあるでしょうし、そうでない人もあるでしょう。しかし、他力の信心を得る、すなわち如来さんの眼に照らされて、愚かな我が身が明らかになるかどうか、とても大切なことです。なぜならば、嘘偽りのない自分自身の姿は、如来さんのお手回しによる「他力」でしか知らされようのないことだからです。ですから、皆さんには「他力」に生かされるこの世界の道理に一刻も早く気づいて欲しいと思うのです。人間の心は、内に目を向ければどこまでも自分勝手に、また外に目を向ければ、次の瞬間何が起こるか全くわからない不確かな世の中を生きています。一方、そんな我が身と世の中を知らせる浄土は普遍の世界です。そうであるならば、人間を超えて人間を照らし出す世界に手を合わせるべきでしょう。どうしようもないこの身のあり様をありのままに照らし出してくださる如来さんのはたらき(=「他力」)に気づかないまま生きていくのは、とても空しい人生といえるでしょう。ともかく、あてにならない人間の自分勝手な心を知らされて、今、まさに南無阿弥陀仏の世界に出遇って欲しいと思うのです。」

蓮如上人の書かれた「御文」には、報恩講に関するものがいくつもありますが、そのどれをとっても「他力の信を獲よ」との心で貫かれています。また、親鸞聖人の御命日を「御明日」と記され、報恩講は、まさに我が身を明らかにする日であるとの意義を示してくださっています。

(浄泉寺若院・釋亜世)

令和7年(2025年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和6年(2024年)亡
三回忌	令和5年(2023年)亡
七回忌	平成31/令和元年(2019年)亡
十三回忌	平成25年(2013年)亡
十七回忌	平成21年(2009年)亡
二十五回忌	平成13年(2001年)亡
三十三回忌	平成5年(1993年)亡
五十回忌	昭和51年(1976年)亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>